

中部地方下水道中期ビジョン（素案）について 皆様のご意見をお聞かせください。

■はじめに：本アンケートについて

国土交通省は平成19年に、今後10年間の下水道整備のあり方を示した「下水道中期ビジョン」を策定しました。これを受け、中部地方は平成19年度に「中部地方下水道中期ビジョン」を策定し、中部地方における下水道の現状や課題と、5年後（平成24年度）を目標として下水道整備の目標・方向性を示しました。

(「中部地方下水道中期ビジョン」について詳しくはこちらをご覧ください)

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/sewer2/index.htm>

今年度、既存の「中部地方下水道中期ビジョン」の目標年次を迎えるにあたり、これまで5年間のビジョン目標の進捗を振り返るとともに、さらに5年後を目標年次とした目標数値の更新及び一部目標項目を追加することとなりました。

- 本アンケートは、新たな中部地方下水道中期ビジョンの策定のための「パブリック・インボルブメント（P I）※」の一環となります。
※P Iとは、計画づくりにおいて関係する地域住民に情報を提供した上で、広くご意見を聞き、それらを計画づくりに反映することです。
- 本アンケートでご回答いただいた皆様のご意見は、集計・整理し、中期ビジョンに反映します。また、結果を中部地方の自治体に公開し、具体的な行動計画を立てるための資料として活用します。

アンケートは次の順番で資料を読んで頂き、各項それぞれにご回答をください。

1. アンケートにご回答頂く前に入力してください
2. 水資源と下水道のかかわり
3. 下水道のしくみ
4. 中部地方の下水道の課題と施策
5. 中部地方下水道中期ビジョン（素案）について
6. 暮らしと下水道について

1. アンケートにご回答頂く前に入力してください

以下は、アンケート結果を整理・統計するために、どのような方にご回答をいただいたかを調査するためのものです。

■Q1 あなたのお住まいを教えてください。

◇お住まい

県名 市町村名

■Q2 あなたの性別・年齢・ご職業を教えてください。

◇性別

男性 女性

◇年齢

10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代以上

◇ご職業

高校生以下 大学生 会社員 公務員 自営業 パート・アルバイト

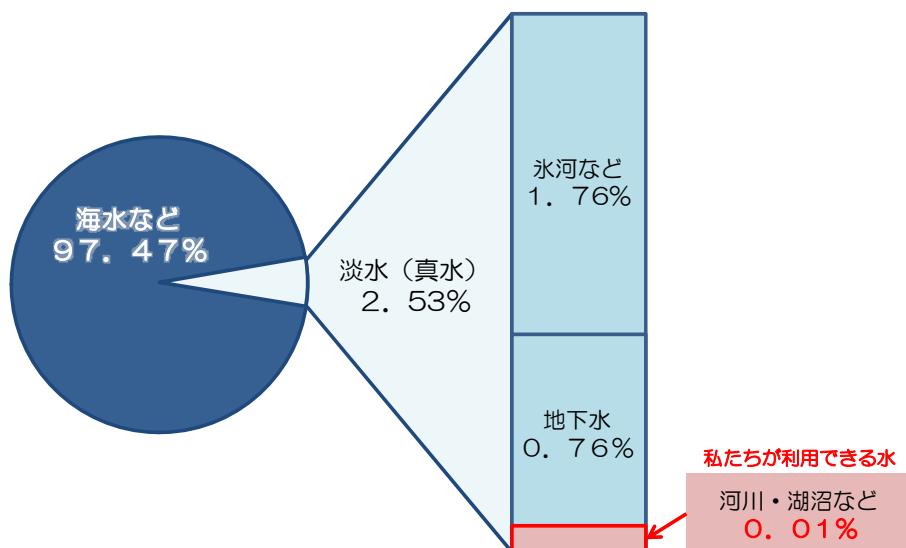
自由業 主婦 無職 その他

2. 水資源と下水道のかかわり

私たちの生活のなかで、水はなくてはならないものです。

しかしながら、「水の惑星」と呼ばれる地球でも、地球上の水のほとんどは海水であり、私たちが飲み水や水道水として使える水はほんのわずかです。

■ 地球上の水=100% とすると・・・

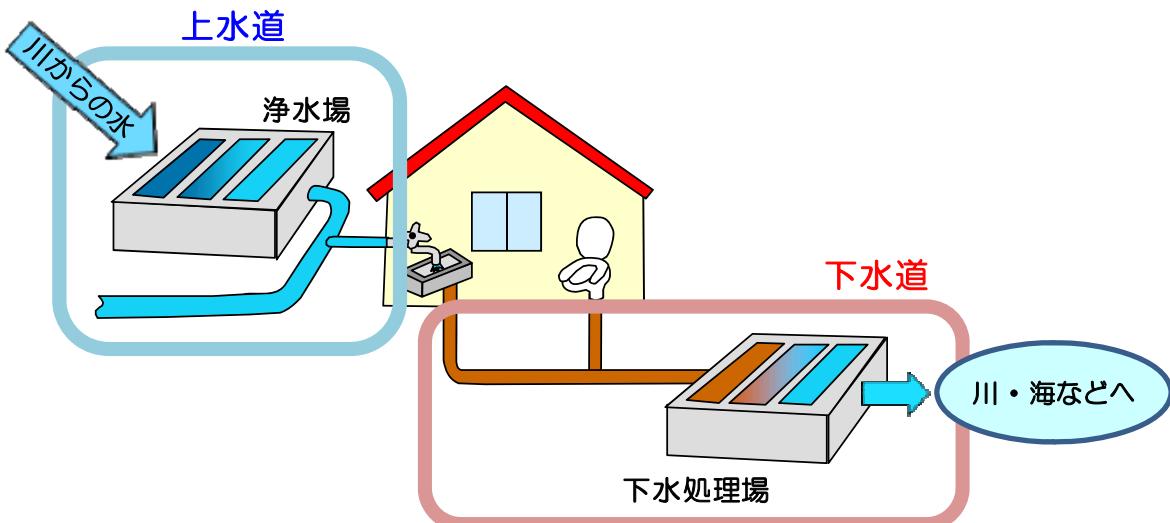


World Water Resources at the Beginning of 21st Century: UNESCO, 2003 より作成

川などから貴重な水を取って、消毒などの処理をし、私たちの家庭の水道の蛇口まで水を運ぶのは「上水道」の役割です。「上水道」のおかげで、私たちはきれいな水を使うことができます。

しかし私たちが水を使用すると、きれいだった水は食べ残しや油、石けんや洗剤、排泄物などで汚れてしまいます。汚れた水は、そのままでは私たちが再び生活で使うことはできませんし、汚れが川や海に流れてしまえば環境汚染となります。

このように私たち人間が汚してしまった水を、回収して、きれいにして自然に返すのが「下水道」です。



下水道には大きく分けて、次の3つの役割があります。

1. 住みよい、衛生的なまちをつくる

汚れた水は地中に整備された下水管により下水処理場まで運んで処理するので、汚れた水が家の周りにたまらず、まちがきれいになります。

かつては汲み取り式だったトイレが水洗化されたのも、下水道の整備のおかげです。



2. 浸水を防ぐ

雨が降った場合でも、下水管によって雨水を街からすばやく排除し、川や海に運びます。浸水を防ぎ、大雨でも安心して暮らせるまちになります。



*もしも下水道がなかつたら・・・

大雨が降ると地面に水がたまり、道路や家屋の浸水が発生します。特に、アスファルトやコンクリートによって舗装された地面は、土に比べて水が浸み込みません。街に下水道がないとすぐに浸水が発生してしまいます。



3. 自然環境を守る

汚れた水は下水処理場できれいにされて、川や海などの自然に還ります。川や海がきれいになり、そこに住む魚や動物、植物を守ります。



*もしも下水道がなかったら・・・

生活排水がそのまま川や海に流れてしまします。海に魚が住めなくなったり、川が洗剤で泡だらけになったりするなど、見た目にも自然の生態系にも様々な悪影響を及ぼします。



出典：社団法人日本下水道協会

■Q3 上記で説明した3つの「下水道の役割」についてご存知でしたか？（複数回答可）

- 「1. 住みよい、衛生的なまちをつくる」について知っていた
- 「2. 浸水を防ぐ」について知っていた
- 「3. 自然環境を守る」について知っていた
- 知らなかった

3. 下水道のしくみ

様々な役割を果たしている下水道は、どのようなしくみになっているのでしょうか。

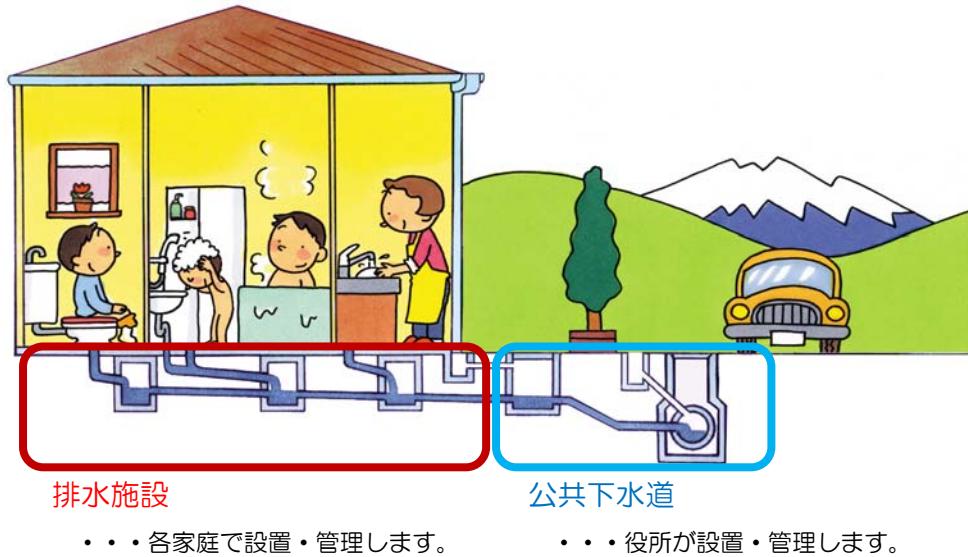
【下水道の接続と管理】

下水道は、街にあるだけでは意味がありません。家庭から出る汚れた水を集められるよう、各家庭の排水設備と公共の下水道が「接続」している必要があります。

下水道が整備された地域では、下水道の供用開始（下水道が使えるようになること）から**3年以内**に下水道に接続することが下水道法で義務付けられています。

下水道に接続するには、工事が必要であり、お金もかかります。これらの負担は、接続する地域住民の皆様に負っていただいています。

下水道は、地域全員が接続し、使用していただくことで役割を果たします。また、皆様からいただいた使用料で下水道の維持管理を行っています。



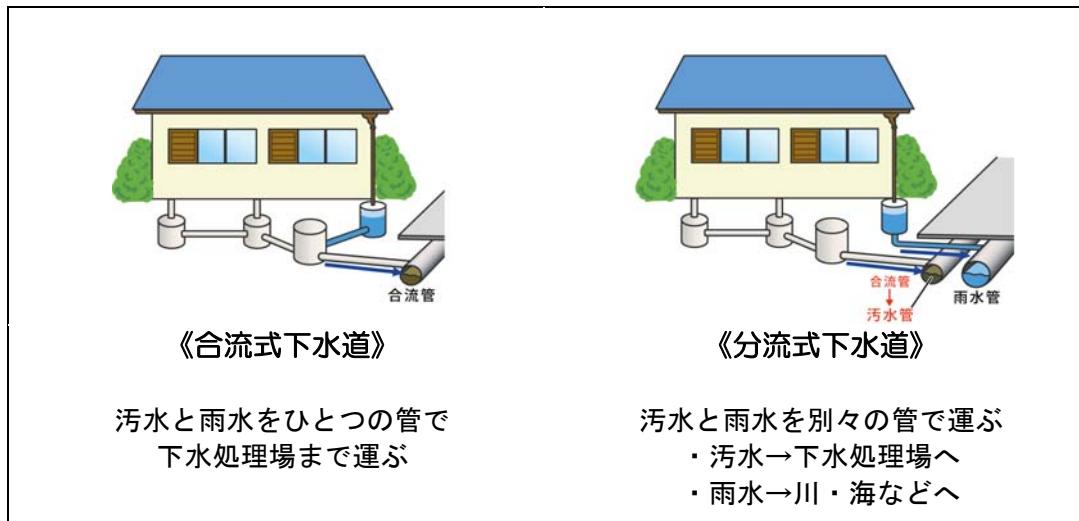
出典：社団法人日本下水道協会

■Q4 上記でご説明した【下水道の接続と管理】について、ご存じでしたか？

- よく知っていた ある程度知っていた 知らなかった

【水の運び方の種類（合流式と分流式）】

まず各家庭から排出される「汚水」や雨により街に流れる「雨水」は、下水管によって運ばれます。水を運ぶ方法には「合流式」と「分流式」の2種類があります。



管が1つで済む「合流式下水道」は早く整備が進むため、古くから下水道整備が進められた都市に多く採用されています。しかし「合流式下水道」は、雨が大量に降ると、汚水と雨水が混ざった水の一部を処理場で処理しきれずにそのまま川や海に放流してしまいます。

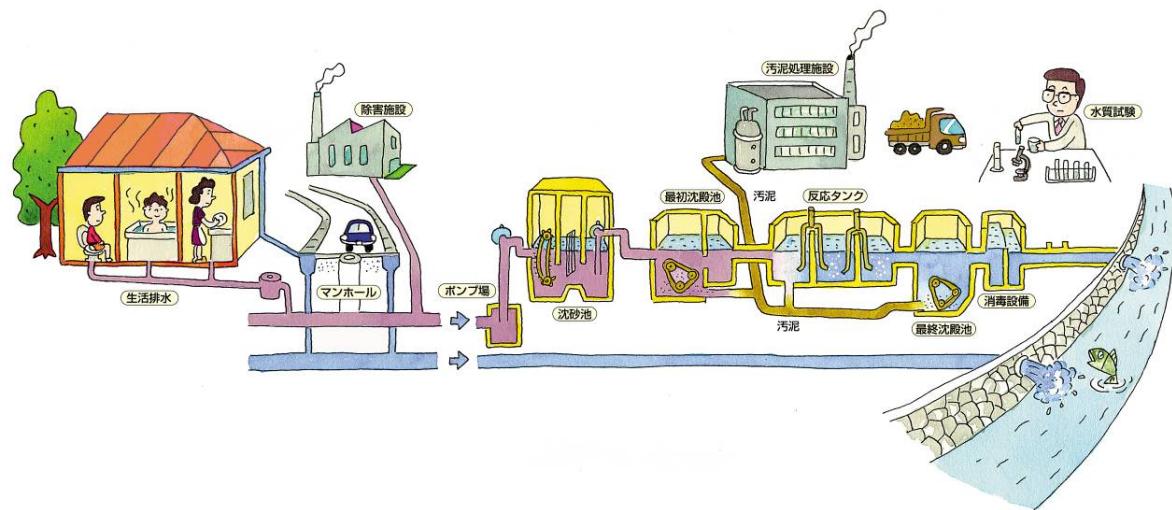
■Q5 上記でご説明した【水の運び方の種類(合流式と分流式)】について、ご存じでしたか？

- よく知っていた ある程度知っていた 知らなかった

【下水道によって水がきれいになるまで】

下水処理場まで運ばれた水は、微生物の力で浄化されたのちに、川や海に放流されます。

下水処理場は一般的に、大きなゴミを沈殿させる「沈砂池」、小さなゴミを沈殿させる「最初沈殿池」、微生物に汚れを食べてもらい、水をきれいにする「反応タンク」、反応タンクで汚れを食べた微生物を沈ませる「最終沈殿池」、水を消毒する「消毒設備」から構成されます。



下水処理場のしくみ（出典：社団法人日本下水道協会）

■Q6 上記でご説明した【下水道によって水がきれいになるまで】について、ご存じでしたか？

- よく知っていた ある程度知っていた 知らなかった

【いろいろな水処理の方法（下水道と浄化槽）】

下水道以外にも生活排水をきれいにする方法があります。

■汚水をきれいにする方法

下水道		地域の汚水を下水管で集め、処理場でまとめて処理します。	多くの家屋が集まる地域で使われます。
浄化槽	合併処理 浄化槽	各家庭で浄化槽を設置し、し尿、台所や風呂等の生活雑排水をあわせて処理します。	家屋が分散する地域で使われます。
	単独処理 浄化槽	各家庭で浄化槽を設置し、し尿だけを処理します。し尿以外の生活排水はそのまま排出してしまいます。	※単独処理浄化槽は現在製造されておらず、既にある単独浄化槽については合併処理浄化槽への切り替えが進められています。
汲み取り式		汚物を槽にためて、定期的に回収、し尿施設で処理します。	※近年はあまり設置されません。

処理方法にはそれぞれ特徴があり、どれが一番効率のよい方法かは地域によって異なります。

下水道の整備には何年もの時間がかかります。そのため、地域の将来まで予測しながら、整備を行っていく必要があります。

■Q7 上記でご説明した【いろいろな水処理の方法（下水道と浄化槽）】について、ご存じでしたか？

- よく知っていた ある程度知っていた 知らなかつた

■Q8 あなたのお住まいの下水処理方式についてお聞かせください。

- 下水道による水洗トイレを使用している 浄化槽による水洗トイレを使用している
 汲み取りによるトイレを使用している わからない

4. 中部地方の下水道の課題と施策

中部地方の下水道にはたくさんの課題があり、さまざまな施策を実施しています。

[安全・防災]に対する施策

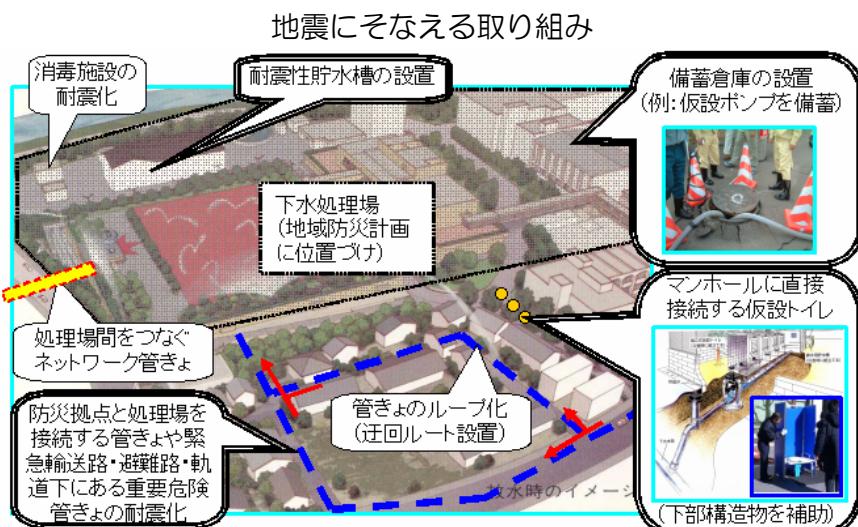
① 都市の浸水対策

浸水を防ぐため、雨水貯留池（雨水を一時的にためる池）、雨水浸透施設（雨水を地面にしみこませる施設）などを整備します。



② 下水道施設の耐震対策、地震対策

大地震の発生が心配されていますが、現在の下水道施設は地震が起きたときにこわれてしまう恐れがあります。大地震が起きたときも機能が停止しないように下水道の耐震化を進めます。



■Q9 上記までの説明は**[安全・防災]**についての施策です。このなかから、あなたが重要と思う施策を選んでチェックしてください。(複数回答可)

- ①都市の浸水対策
- ②下水道施設の耐震対策、地震対策

[自然・環境]に対する施策

③ 处理水の再利用

一般に下水処理場で処理された水は川や海に放流されますが、水質の状態を見て再利用をすることもできます。河川等へ放流するだけではなく、親水公園やせせらぎ用水に利用することで水循環への貢献を果たします。



下水処理水を利用した広場（岡崎市末広町）

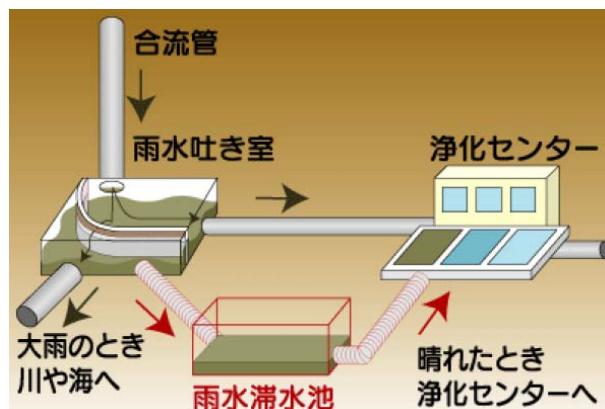
出典：あいち下水道整備

④ 合流式下水道の改善

古くから下水道を整備してきた都市にある合流式下水道は、汚水と雨水を同じひとつの管路に流します。そのため、大雨が降ると水量が増え、処理場で処理しきれない汚水が川や海に流れてしまいます。

例えば、処理しきれない水を一時的に溜められる施設を作れば、後で処理を行ってから放流できるようになります。このような形で、汚水が自然に流れないように改善を行っていきます。

合流式下水道の改善策の例（雨水滞水池）

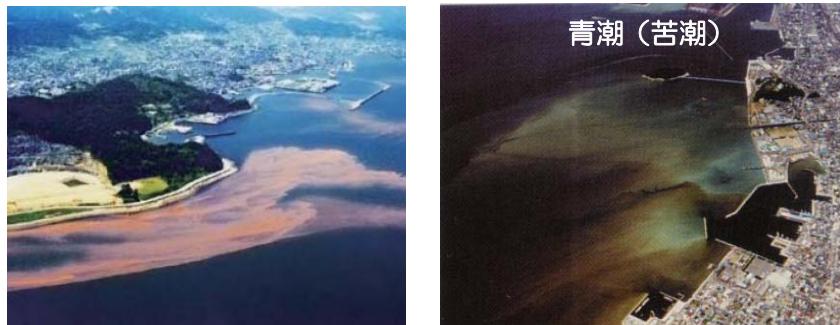


出典：横須賀市上下水道局 HP

⑤ 高度処理の推進

伊勢湾や三河湾、浜名湖などの閉鎖性の強い水域では、水の交換が悪くプランクトンの異常発生などが起り、水質が悪化することがあります。水質改善のためには、汚水の高度処理（通常の処理方法では十分に処理できないりんや窒素を除去する処理方法）ができるように処理場をレベルアップする必要があります。

三河湾の水質汚染



青潮（苦潮）

出典：伊勢湾環境データベース HP

赤潮の発生した浜名湖



⑥ 下水汚泥の再利用

下水汚泥とは、処理場において汚水中の汚れを食べた微生物が沈んだもので、従来は地中に埋めるなどして処分を行ってきました。これを埋め立て処分とするのではなく、肥料や建材として利用したり、汚泥からエネルギーを取り出すなどして、汚泥の再利用を進めます。

汚泥の再利用例



出典：愛知県



出典：日本下水道協会

⑦ 水道水源の水質保全

私たちの飲料水、生活用水は、川や湖沼の水を取水し、浄水場で処理して、水道を介して供給されます。水道水源の水質が悪化すると、水道原水として利用できなくなる等の問題があります。そのため、水源の上流部は下水道の整備を行い、処理されない生活排水等が流れないようにする必要があります。

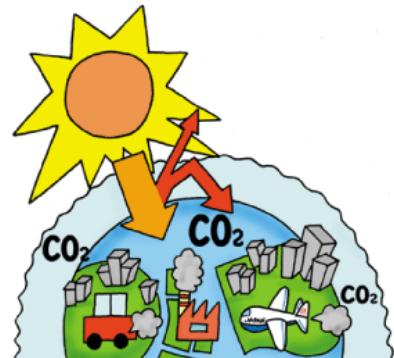
岐阜県 徳山ダム



出典：水資源機構 徳山ダムパンフレット

⑧ 地球温暖化対策

地球温暖化は世界共通の環境問題です。下水処理場でも、下水処理の際には電力などのエネルギーを消費し、温室効果ガスの排出につながります。地球温暖化対策として、新技術の導入、運用の工夫等により、省エネルギー、省資源化を行う必要があります。



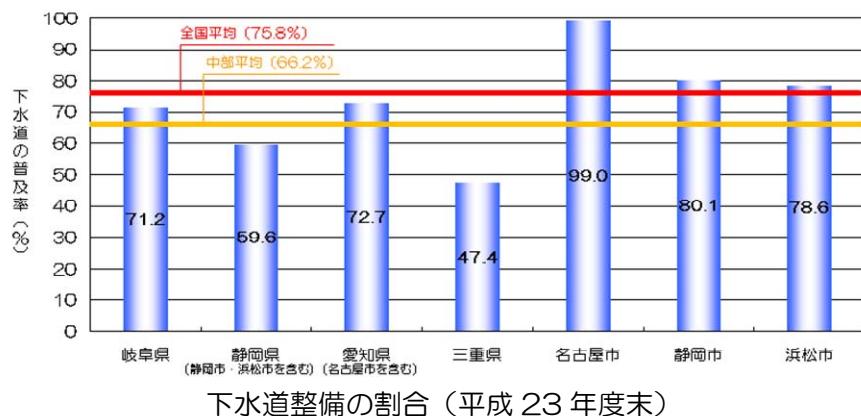
■Q10 上記までの説明は【自然・環境】についての施策です。このなかから、あなたが重要と思う施策を選んでチェックしてください。(複数回答可)

- ③処理水の再利用
- ④合流式下水道の改善
- ⑤高度処理の推進
- ⑥下水汚泥の再利用
- ⑦水道水源の水質保全
- ⑧地球温暖化対策

[経営・運用]に対する施策

⑨ 下水道の普及

中部地方には、下水道の整備が遅れている地域が多くあります。下水道が必要とされているにもかかわらずまだ整備がされていない場所について、早急に下水道整備を行います。



⑩ 下水道の接続率の向上

下水道が整備されている地域の中にも、下水道に接続できていない家庭があります。効率が良い下水道施設の運用を行うため、また使用料金の確保の側面からも、浄化槽等から切り替え、下水道へ接続をしてもらう必要があります。



⑪ 浄化槽処理との連携

汚水の処理を行う方法には、下水道以外にも各家に小さな汚水の処理装置（合併処理浄化槽）を設置することなどがあります。人口の減少など社会の様子をしっかりと踏まえて、どの処理方法が一番よいのか、地域に合った方法を検討する必要があります。



⑫ 下水道施設の計画的な管理運営

現在の下水道施設を適正に評価し、計画的な更新や補修を行う必要があります。

⑬ 汚泥処理のコスト削減と効率化

下水汚泥の処理に対して、現在の処理工程を見直したり、新技術の導入をすることによって処理費用の削減や効率化を進めます。

⑭ 経営の健全化

下水道施設の維持管理は、使用者の使用料金でまかなうことになっていますが、この使用料金だけではまかないきれなくなってきた市町村も見受けられます。地域の将来を予想して経営計画を立てることで、経営改善を行います。

⑯ 技術と人員の確保

下水道施設の建設や維持管理には特有の技術が必要です。しかし、一度下水道施設ができあがってしまうと管理組織は縮小化されがちです。下水道の様々な技術を引き継ぎ、伝えることができなくなってしまっており、若手技術者も不足の傾向にあります。技術者の育成や民間事業者の活用によって技術や人員を確保します。



出典：社団法人日本下水道協会

⑯ 財政問題（税収低下への対応）

税収の低下により、市町村の財政、下水道の財源は厳しい状態です。下水道施設の建設は税金により行われています。税収の低下に対応できるよう、効率的に事業を行っていきます。

■Q11 上記までの説明は【経営・運用】についての施策です。このなかから、あなたが重要と思う施策を選んでチェックしてください。(複数回答可)

- ⑨下水道の普及
- ⑩下水道の接続率の向上
- ⑪浄化槽処理との連携
- ⑫下水道施設の計画的な管理運営
- ⑬汚泥処理のコスト削減と効率化
- ⑭経営の健全化
- ⑮技術と人員の確保
- ⑯財政問題(税収低下への対応)

[その他] に対する施策

⑯ 人口減少社会への対応

今後、人口が減少することが推測されています。これまでの下水道施設は人口が増加することを前提に建設されてきましたが、下水道施設の規模や得られる使用料金等を見越して、計画や運用をしていくことが必要となります。

⑰ 下水道事業に対する住民の理解

地域住民の皆様の理解が深まれば、下水道事業は施設管理の面、また財政の面でも大きく助けられます。下水道への接続・水洗化、下水道に負荷をかけない水の使用等、住民の皆様にも協力いただけることがあることを積極的に広報します。

○熱いものを流さない



○油は紙等に吸い取って捨てる



下水道の適切な利用

出典：社団法人日本下水道協会

■Q12 上記までの説明は[その他] についての施策です。あなたが重要と思う施策を選んでチェックしてください。(複数回答可)

- ⑯ 人口減少社会への対応
- ⑰ 住民の理解促進

■Q13 以上、ご覧いただいた18の施策の中で、あなたが特に重要と思う施策を3つ選んでチェックしてください。

- [安全・防災]** ①都市の浸水対策
- [安全・防災]** ②下水道施設の耐震対策、地震対策
- [自然・環境]** ③処理水の再利用
- [自然・環境]** ④合流式下水道の改善
- [自然・環境]** ⑤高度処理の推進
- [自然・環境]** ⑥下水汚泥の再利用
- [自然・環境]** ⑦水道水源の水質保全
- [自然・環境]** ⑧地球温暖化対策
- [経営・運用]** ⑨下水道の普及
- [経営・運用]** ⑩下水道の接続率の向上
- [経営・運用]** ⑪浄化槽処理との連携
- [経営・運用]** ⑫下水道施設の計画的な管理運営
- [経営・運用]** ⑬汚泥処理のコスト削減と効率化
- [経営・運用]** ⑭経営の健全化
- [経営・運用]** ⑮技術と人員の確保
- [経営・運用]** ⑯財政問題（税収低下への対応）
- [その他]** ⑰人口減少社会への対応
- [その他]** ⑱住民の理解促進

6. 中部地方下水道中期ビジョン（素案）について

「中部地方下水道中期ビジョン」は、中部地方におけるこれからの中水道の整備・管理のあり方やその目標を明確にするなど下水道整備の基本方針を示すとともに、地域にわかりやすい行政を目指して策定しています。

中部地方下水道中期ビジョンは、次の5つの柱のもとに作成しています。

I. 快適な暮らしの実現

中部地方の下水道未普及地域をなくして、快適な都市環境を創造するとともに、生活環境の改善、広域的な水環境の改善を行います。

II. 良好な環境の創造

汚水が直接川や海へ排水されることを防ぐため、合流式下水道の改善を行うとともに、良好な環境・水循環を創造します。また、地球温暖化防止への貢献、資源・エネルギーの利活用など、社会的なニーズにも応えていきます。

III. 安全で安心なまちづくり

下水道が、地震や津波、大雨の際に機能しなくならないように、地震対策や浸水対策を施した下水道整備を進めています。

IV. 事業の継続性の確保

下水道が、今後も継続して地域等へ安定したサービスを提供できるよう、下水道機能の安定化に努めるとともに、下水道経営の安定化についても努めています。

V. 地域住民との連携

今後の下水道事業を効率的に進めるため、地域の皆様との協働・交流・連携に努めます。

この「5つの柱」を軸として、今後の中部地方の下水道の課題と対策を「11の施策」としてまとめたのが「中部地方下水道中期ビジョン」です。

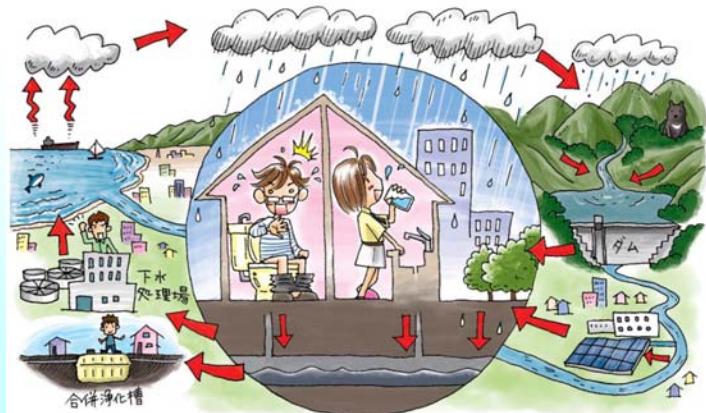
中部地方では、この5年間で「11の施策」を進めてきました。

【5つの柱・11の施策とこれまでの進捗状況】

I. 快適な暮らしの実現

①快適な都市環境、生活環境の実現

- ・合併浄化槽などの汚水処理事業と連携して、効率的な下水道整備を進めていきます。
- ・下水道整備が遅れている地域を中心に、下水道整備を進めていきます。



《5年間の進捗》 目標達成率・・・△

財政上の制約や計画の見直しなどによって、下水道整備の着手や供用開始が一部遅れています。

II. 良好的な環境の創造

②合流式下水道の改善による健全な水環境の保全

- 合流式下水道では、一定以上の雨水が下水道管に流れると、下水処理場で処理できない水が汚水と一緒に直接川や海に流れてしまい、川や海を汚染することになります。このため、大雨にも対応できるよう、合流式下水道の改善を行います。

③伊勢湾等の閉鎖性水域の良質な水環境を実現

- 赤潮や青潮（苦潮）の原因と考えられる水中の「窒素」や「リン」を除去できる下水処理施設（高度処理施設）の整備を進めていきます。

④良質な水道水源の確保

- 水道水の水質を保全するため、水道事業と連携し、万が一の事態に備え、水道水源地への汚水処理施設整備を進め、汚水の流出や拡散の防止に努めます。

⑤水辺環境の創造等を通じた都市・地域の魅力の向上

- 下水処理水を公園等の公共施設や水量の少ない小河川に流し有効活用を図ります。

⑥健全な水循環系と生態系を構築し、持続可能な環境を創造

- 水質浄化等を通じた清流の回復を進めるほか、浸透施設を積極的に設置し、雨水を地下水として循環させるなど、健全な水環境系と生態系の創造に努めます。

⑦下水道資源の循環促進と利活用による地球環境への貢献

- 下水処理によって発生する下水汚泥などを、建設物の材料や肥料、燃料などの資源としてより多く有効活用できるよう努めます。



《5年間の進捗》 目標達成率・・・○

概ね目標達成していますが、処理水の再利用については、水質の問題やニーズの不足があり、普及が進んでいない状態です。

III. 安全で安心なまちづくり

⑧集中豪雨、東海・東南海地震に備えた安全で安心な地域構造の形成

- ・浸水が起こりやすい地域では、下水道による浸水対策を強化する他、地震に備え下水道施設の耐震化、災害対応力の強化を行います。
- ・災害時の住民の自主的かつ的確な避難等の対応を促進します。



⑨既存の下水道ストックの機能を持続させ、道路陥没事故等の未然防止による地域の安全性を持続

- ・耐震化事業と連携した計画的な改築・更新を行い、下水管の機能を確保します。



《5年間の進捗》 目標達成率・・・◎

目標達成されています。

近年、実際に浸水被害が発生していることもあります、排水施設の整備や浸水被害想定マップの作成が特に積極的に進められています。

IV. 事業の継続性の確保

⑩新たな社会ニーズにも応えられる持続可能な下水道の実現

- ・老朽化が進む施設について、老朽化診断等により現状を把握し、施設の適切な維持管理と計画的な補修、更新によって施設の長寿命化に努めます。
- ・社会情勢を踏まえた下水道計画の見直しを行い、中長期的な視点から健全な下水道経営に努め、地域の多様なニーズに応えます。



《5年間の進捗》 目標達成率・・・◎

目標達成されています。

公共施設の老朽化が問題となっています。下水道についても対応策として長寿命化計画の策定が優先して進められています。

V. 地域住民との連携

⑪地域住民との連携を深め、下水道事業への住民の理解と積極的な参画を推進

- ・地域住民と情報を共有し、地域住民の意見を事業に反映する仕組みを構築します。
- ・下水処理場等の施設空間を活用した環境学習を行うなど、下水道に関する理解を深める取り組みを推進します。



《5年間の進歩》

地域住民への工事の説明や、下水道広報イベント、小学校への出張授業などを継続して行っています。

【ビジョンの改定と新たな目標】

《これまでの進捗のフォローアップより》

現状を確認(フォローアップ)した結果、ビジョンに掲げた目標が達成できているもの、できていないものが明らかになりました。

目標達成したものは、ビジョンの項目はそのままに、さらに5年後の目標値を設定します。達成できなかつたものは、その背景や要因を考慮して目標値を見直します。

《新しい目標設定の視点》

フォローアップの結果を踏まえ、これまでのビジョンの項目に、社会背景の変化や下水道行政における課題といった観点から「下水汚泥のエネルギー化」「下水道BCP※策定」「広報活動の充実」という新しい項目を設けることにしました。

・社会背景の変化

・・・東日本大震災を契機とした、地震、津波といった自然災害への対策、エネルギー問題など

・下水道行政における課題

・・・下水道事業の理解促進、広報手法の改善など

※BCP (BCP : Business Continuity Plan 事業継続計画) :

災害等の緊急時に事業をどう継続・復旧していくかを定めた計画のことです。災害発生時に連携・協力して救援・復旧・復興に取り組んでいける仕組みづくりが求められています。

新たな施策の方針

■エネルギー問題

- ・東日本大震災の教訓
- ・世界的なエネルギー需要の増加

新エネルギーの開発・導入の必要性

下水道事業からの取り組み

下水汚泥のエネルギー化 (消化ガス発電等の推進)



■災害対策

- ・今後懸念される大地震への対策
(施設の・発生時の対応・その後の復旧)

緊急時にも事業を継続できる 仕組みづくりの必要性

下水道事業からの取り組み

災害時の下水道事業継続計画 (下水道BCP策定)



■行政・事業に求められるもの

- ・住民にもわかりやすい事業運営・地域住民との情報共有の必要性
- ・身近な「下水道」に対する住民の理解の向上

住民の理解促進へ向けた活動 (広報活動の充実)



■Q14 以下に3つの「新たな施策」を示しました。この中で、あなたが最も重要だと思う施策を選んでください。これら3つの施策の他に、新たな施策となり得るアイデアがありましたら、【その他の意見】にご回答ください。

○ エネルギー問題への貢献（下水汚泥のエネルギー化）

下水汚泥から発生する消化ガスは、発電に利用することができます。次世代エネルギーの積極的な導入が求められています。

○ 事業としての地震・津波時対応（下水道 BCP 策定）

BCP (BCP: Business Continuity Plan 事業継続計画)とは、災害等の緊急時に事業をどう継続・復旧していくかを定めた計画のことです。災害発生時に連携・協力して救援・復旧・復興に取り組んでいける仕組みづくりが求められています。

○ 下水道の理解促進（広報活動の充実）

下水道事業を住民の皆様に理解してもらうために、よりわかりやすい広報手法を持ち、充実した広報活動を目指す必要があります。

○ 【その他の意見】

現在作成中の中期ビジョン（素案）については以下をご覧ください。

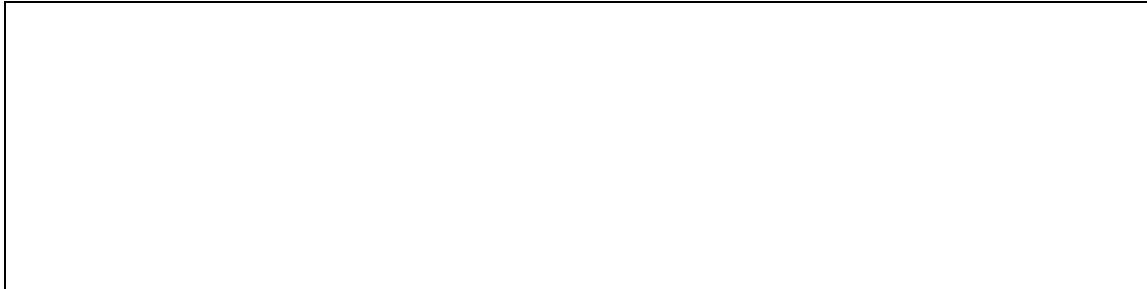
□ 中部地方下水道中期ビジョン（素案）. pdf

*上記の中部地方下水道中期ビジョン（素案）に記載されている数値等については、現時点での暫定値（作業値）であり、確定された値ではありません。

■Q15 【中部地方下水道中期ビジョン（素案）】に対するあなたのご意見をお聞かせください。

- この方向で検討を進めてよいと思う。
- 修正が必要だと思う。
- その他

■Q16 上記を選んだ理由をご回答ください。



6. 暮らしと下水道について

□あなたの日常生活における下水道とのかかわりについてお聞かせください。

■Q17 あなたは普段、下水道について何から情報を得ますか？(複数回答可)

- 自治体等の広報紙
- 新聞・雑誌
- インターネット
- 学校
- 職場
- 何もない

■Q18 あなたの家では、下水道を利用していますか？

- はい → Q19へ
- いいえ → Q20へ
- わからない → Q21へ

■Q19 【利用している方へお伺いします。】

ご自分が支払っている下水道料金のおおよその額をご存じですか？

- 知っている
 - 知らない
- Q21へ

■Q20 【利用していない方へお伺いします。】

あなたが下水道を利用していない理由は何ですか？

- 下水道が整備されていない
- お金がかかるため
- これから長く使う予定がないため
- 既に浄化槽などがあり、必要性を感じない
- 面倒だから

よくわからない → Q21へ

■Q21 下水道について、一番知りたいのはどのようなことですか？

- 下水道の役割や整備のメリット・デメリットについて
- 自分の住む地域の整備計画や工事について
- 下水道の接続にかかるお金や日々の使用料のことについて

■Q22 あなた自身(あなたの家庭)で、自然や水資源を守るために普段気をつけていますか？

当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- 水を出しっぱなしにしたり、ムダ使いしないようにしている。
- 油を台所に流さないでゴミとして出している。
- 洗剤や石けんの量に気を使っている。
- 雨水をためて、トイレの水などに再利用している。
- その他(ご自由にお書きください。下水道にかかわることでなくてもかまいません。)